

第5期北見市障がい福祉計画の策定に関する意見交換会 議事録（要旨）

●日 時：平成29年9月5日(火) 午後2時00分～3時00分

●会 場：端野総合支所 1階会議室

●参加者： 【参加者】 1人

【策定委員】 3人

【事務局】 4人

意見交換会で出された地域の課題、障がい当事者や関係者の意見等

★参加者★

・障がい者の数と団体に加入している会員の数に隔たりがある。役員になった当初は会員数を増やそうと頑張ってみたが、市役所の窓口では個人情報保護の観点からどこに障がいをお持ちの方が住んでいるか情報提供を受けることができない。会員数が少ないと団体としての活動もままならないので非常に困っている。

★事務局★

・会員の高齢化もあり新規会員確保に苦労しているのは、北見地区についても同様である。市としては手帳を交付する際に団体の案内をすることや、窓口で団体の入会申込書を設置することは可能と考える。また広報でアピールすることも現在検討中である。しかし、お話の通り個人情報を教えることは難しい。

★参加者★

・訓子府では障害者手帳の交付を受けると、障がい者団体に必ず入る仕組みになっていると聞いたことがある。

★事務局★

・手帳が交付されたからといって行政からそのような斡旋をすることおそらくはないだろう。

★策定委員★

・人口が少ないこともあって、行政との結びつきが強いから個人の情報を把握しやすい。

★策定委員★

・保健師さんが積極的に結び付けているのではないだろうか。

★策定委員★

・道の心障連が数年前に、会員の減少をなんとかしようと考え北海道に市町村の窓口で団体の紹介をしていただきたくと陳情した。そのため、市町村には北海道から協力要請が通達されている。現在8つの障がい者団体の紹介と、申込書が一緒になったチラシがあり、その中に端野支部を追加することはできる。

★参加者★

・人数が少ないと活動することが難しい。会員の数が多ければ収入を得る様な活動も可能だが現状は厳しい。資料の8つの方針の中で障がいをお持ちの児童について記載があるが、団体として責任をもって関わっていく必要はあるのか。

★事務局★

・児童についてこれまでと変わりが無いが、明確に計画を作成することが決められた。また障がいをお持ちの児童について、関わり合いでいえば、親どうしの情報交換が必要になるため育成会等が中心になっていくと思われる。

★策定委員★

・早期発見できた場合と、大人になるまで支援体制との関わり合いがない場合だと、社会への適応能力に大きな差が出る。早期発見ができれば個別計画を作成することも可能なためより本人に合った療育が可能である。団体に参加すれば孤立を防ぐこともできる。

★策定委員★

・先日開催したビールパーティで団体のチラシを配ったところ、新規の入会が2名ほどいた。広報等での宣伝も成果が期待できるかもしれない。

★事務局★

・団体の存在を知ることができれば、困りごとがあっても一人の声ではなく団体の要望として訴えることができる。今後高齢化が進んでいくなかでの会員確保のため、広報等を利用することが市としても大切だと考えている。